



じしゅう どうこうさん
時宗 東岡山 福田寺

【ホームページもご覧ください】

<https://kyoto-fukudenji.com/>



～今月のおことば～

物をほしが^{しんこん}る心根は 餓鬼の果報にたがはざる 一遍上人
(意訳: 必要以上の欲望は、餓鬼と何ら変わらない)

9月22日 14時より彼岸施
餓鬼法要を行います。ぜひ
ご参詣ください。

“餓鬼にご用心”

梅雨に猛暑、そして台風と、忍耐力が養われる天気が続きますね。お盆のお墓参りの等お出かけの際には、熱中症に十分ご留意いただければと思います。

さて「お盆」とよく混同されるものに「施餓鬼」があります。お盆に行われる法要は「盂蘭盆会」というのに対し、施餓鬼の法要は「施餓鬼会」、「施食会」といいます。ただし、関東を中心にお盆の時期に施餓鬼法要を行うところも多く、意味合いが少しごちゃ混ぜになっている節があります。どうしてでしょうか。

まず、盂蘭盆会は『盂蘭盆経』というお経をもとに修されます。ある時、お釈迦様の十大弟子のひとり目蓮尊者が神通力をもって亡き母の姿を探すと、餓鬼の世界に墮ちていることを知りました。飢えと渴きを訴えていたので、水や供物を捧げようとしてますが、口に入る直前に炎となり母親の口には届きませんでした。この餓鬼の世界は、欲にまみれたものが墮ちる世界です。お釈迦様に相談したところ、安居(雨季の修行)が終わるころ、多くの僧侶に供物を捧げるようにと答えられました。その通り実行すると、僧侶たちはもとより、餓鬼道の母親も供養できたと説かれています。

一方、施餓鬼会は『救拔焰口陀羅尼経』に依っており、こちらは十大弟子の阿難尊者の物語です。ある時、瞑想中に焰口という餓鬼が現れました。口から火を吐く恐ろしい姿の餓鬼は、阿難尊者に向かって「3日後、お前は死んで私と同じ餓鬼道に墮ちるだろう」と告げました。困った阿難尊者はお釈迦様に助けを求めると、「それを避けるには仏・法・僧の三宝、また一切の餓鬼に供養しなければならない」、「一器の食物を無量無数にする秘法がある」と教わりました。この教えのお陰で阿難尊者は寿命を延ばすことができたと言われています。

ここで共通している点、重要な点は、餓鬼の存在と供養の相手かと思えます。お釈迦様は供養の相手を、目蓮尊者の場合は母ではなく多くの僧侶に、阿難尊者の場合も一切の餓鬼にと言ったように、限定することはありませんでした。餓鬼とは“欲望が尽きず、欲を奪い合う存在”です。この果てない欲望という色眼鏡で見える世界は、もはや餓鬼の世界に他なりません。ですから、お釈迦様は分け隔てのない供養を示されたのではないのでしょうか。今日、時宗の盂蘭盆会や施餓鬼会においても“六道四生三界萬靈有縁無縁の精霊”と言った偈文ですべての精霊に回向します。ご先祖様だけでなく、ありとあらゆる存在へ供養の心を向けて、さらに自分の心に巣くう餓鬼にも目を向ける、そういった心持ちが大事なのかと思えます。

科学技術の発展した現代社会では、「死者供養」、「先祖供養」、「餓鬼」と言った言葉は受け入れがたいものかもしれません。しかし、発達により競争が激化した社会は、“欲を奪い合う餓鬼”の大好物であることも忘れてはならないのです。

合掌

【六道とは】

衆生が輪廻する世界を六道と言ひ、全てが迷いの世界です。ここから解脱し極楽世界に往生することを願います。

① 天道

快樂が多い分、苦も強い

② 人道

苦楽ともにあり、仏法を聞くことができる

③ 修羅道

闘争が絶えない

④ 畜生道

理性がなく本能のみ

⑤ 餓鬼道

飢えと渴きが絶えない

⑥ 地獄道

苦が絶え間なく続く

